

くらべてみよう！八代のカタチ

干拓とは、海水の満ち引きを利用して土地をつくることです。遠浅の八代海沿岸に位置する八代は、干拓に適した地域として、古くから盛んに干拓が行われてきました。時代を追って八代の絵図を見ていくと、どのように干拓が広がり、八代平野がつくられていったかを読み解くことができます。今回は、江戸時代以降、干拓によって八代のカタチがどのように変化していったのかを、絵図から読み解いていきます。

文政7年（1824）の八代のカタチ

1 文政七年八代御巡検道筋図

文政7年（1824）／紙本著色 当館所蔵（西村家資料）



熊本藩主細川斉樹が、文政7年（1824）に、百町、四百町、七百町をはじめとする八代新地の視察にやってきた際の視察ルートを書きこんだ絵図。久具（現・宇城市松橋町）などから海岸線上を通り、干拓堤防をじっくり見学していることがわかります。

注目されるのは、現在は陸地となっている「産島」、「大島」、「大鼠蔵島」、「小鼠蔵島」が八代海に浮かぶ島々として描かれていること。「高島」も陸地に接する半島となっています。これらの島々は現在でも地名として残り、かつて島であったことを今に伝えています。江戸時代後期の八代のカタチを示す貴重な絵図です。

文化13年（1816）以前の八代のカタチ

2 八代郡境図

文化年間（1804～1816）／紙本著色 当館所蔵

本図は八代郡と接地する郡との境界を示したものです。絵図の黒線はそれぞれの郡との境界線で、海上にも八代郡と天草、宇土、芦北郡との境界線が引かれています。

文化13年（1816）、高島新地の干拓事業で陸地化する「高島」が海上の島として描かれていることから、文化13年以前の状況を描いたものと考えられます。

鏡村の海先に見える「貝洲」は文政4年（1821）の七百町新地の干拓によって陸地化するところです。「文政七年八代御巡検道筋図」や「八代・宇土・天草・芦北郡境図」とくらべると、江戸時代の干拓をとおして八代のカタチが変わっていく様子がよくわかります。



嘉永5年(1852)ころの八代のカタチ

3 八代御巡検道筋図

嘉永5年(1852)カ／紙本著色 当館所蔵(西村家資料)



八代海沿岸の干拓の様子を描いたものの。年代は記されていませんが、嘉永5年(1852)に熊本藩主細川斉護が、砂川新地の潮留め工事を視察しており、絵図上に赤線で視察ルートが描かれていることから、このころに作成されたものと考えられます。

四百町新地(文政2年・1819年に完成)の沿岸部を見ると、5基の樋門が描かれています。これは大鞘川に架かる樋門で、大鞘樋門と呼ばれています。現在でも5基のうち3基が現存しています(大鞘樋門群・熊本県指定史跡)。当時の沿岸部の様子を知ることができる貴重な資料です。



熊本県指定史跡 大鞘樋門群

(平成17年6月8日指定)



大鞘樋門(殻樋)



大鞘樋門(江中樋)



大鞘樋門(二番樋)

明治9年(1876)の両出村のカタチ

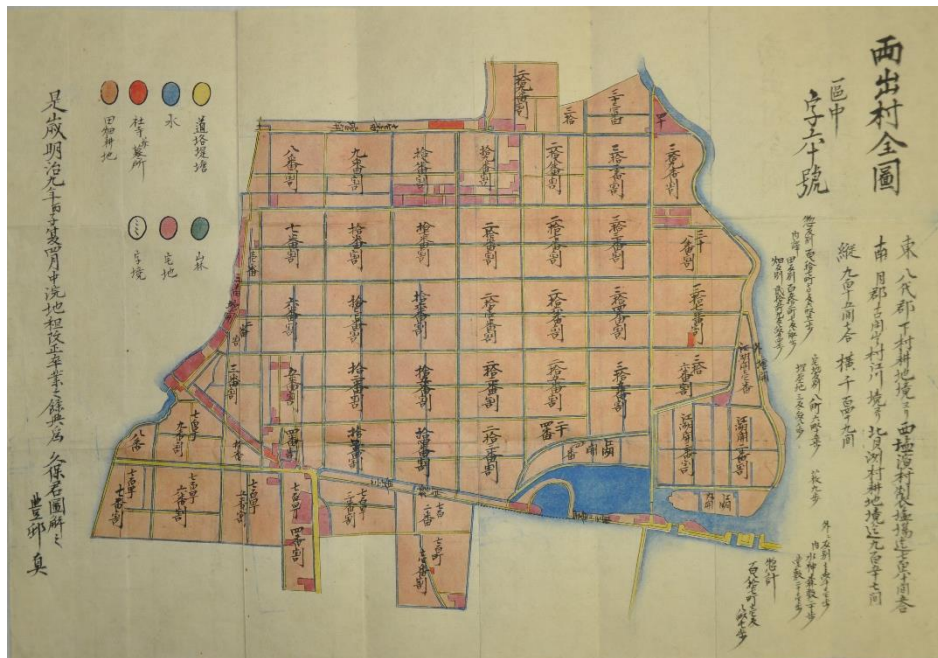
4 両出村全図

明治9年(1876)／紙本著色

当館所蔵(西村家資料)

明治9年(1876)に作成された両出村(現・鏡町両出)の絵図。両出村は四百町新地の干拓でできた北出村と外出村が明治9年に合併してできました。本絵図は、この合併に伴う地租改正のためにつくられたものです。

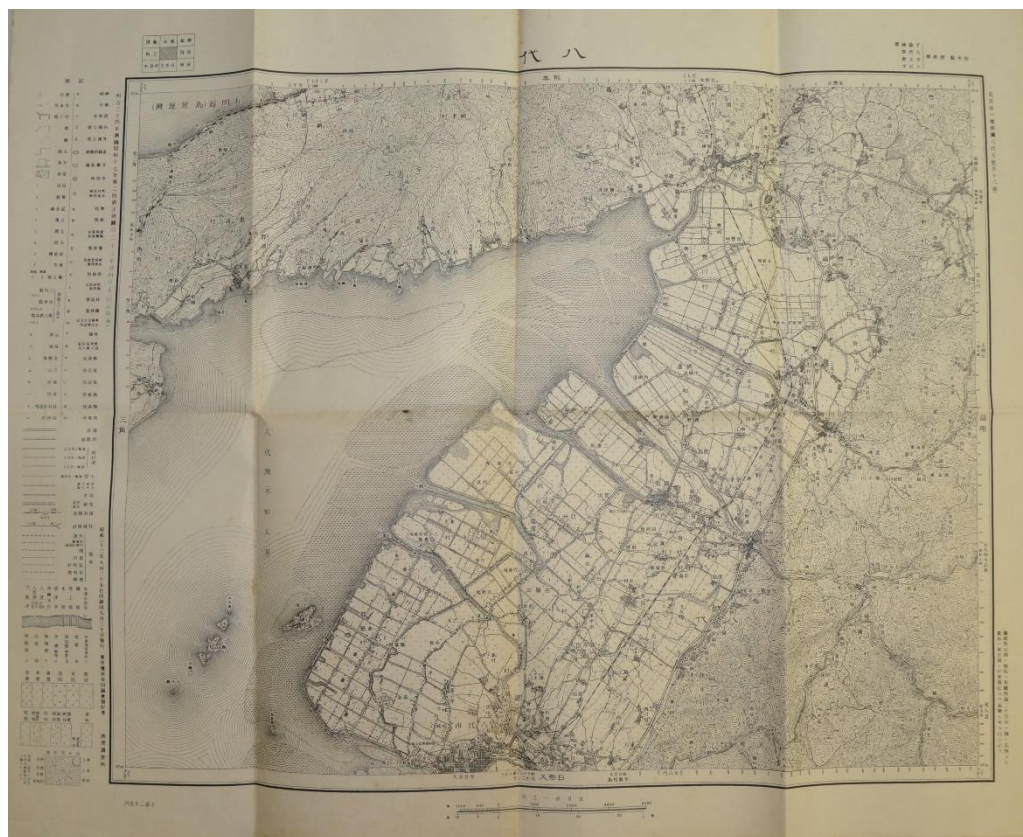
絵図を見ると、土地は碁盤の目のようにきれいに区画が整理されており、田畑や寺社、宅地、道路、堤防が色分けされており、当時の土地の使用状況がよくわかります。



昭和 22 年（1947）の八代のカタチ

5 八代 五万分の一地形図

昭和 22 年（1947）／印刷 当館所蔵（西村家資料）



昭和 22 年（1947）に刊行された八代の地形図です。明治 33 年（1900）から明治 37 年（1904）にかけて行われた郡築干拓により「産島」が陸地となっています。

昭和 2 年（1927）には県営「北新地」が完成して田畑や水路、道路が整備されていきました。「北新地」は第二次世界大戦中の昭和 17 年（1942）、当時の陸軍により八代飛行場の建設場所に指定されました。干拓によってできた平で広大な土地は、飛行場にはうってつけの場所だったのでしょうか。一方で北新地の住民たちの多くが家や土地を手放すこととなりました。

江戸時代以降も干拓が続けられ、八代のカタチがかわっていったことがわかります。

八代の干拓の功労者・鹿子木量平を紹介した本

6 『鹿子木量平』

大正 4（1915）／印刷 当館所蔵（西村家資料）

大正 4 年（1915）に、文政尋常小学校長の福島小市が編さんした鹿子木量平の事績を紹介する本。

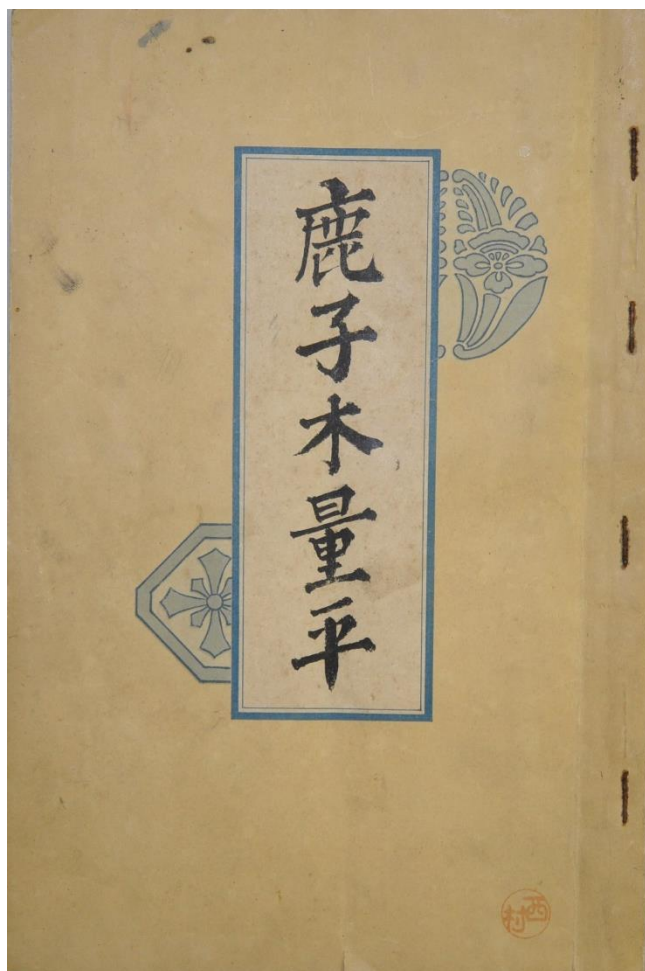
鹿子木量平は江戸時代後期に野津手永や高田手永などの惣庄屋をつとめ、百町、四百町、七百町をはじめとする八代海沿岸の干拓事業を主導した人です。

明治時代には、鹿子木量平の恩に報いるため、地元住民たちによって熊本県知事に対し鹿子木量平を祀る文政神社の創建願いが提出され、明治 43 年（1910）に社殿が完成しました。

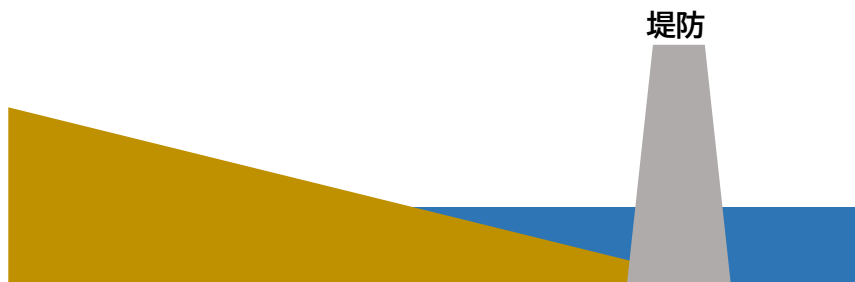
この本が刊行された大正 4 年には、鹿子木量平に従五位が授与されています。鹿子木量平が八代に残した功績の大きさがわかります。



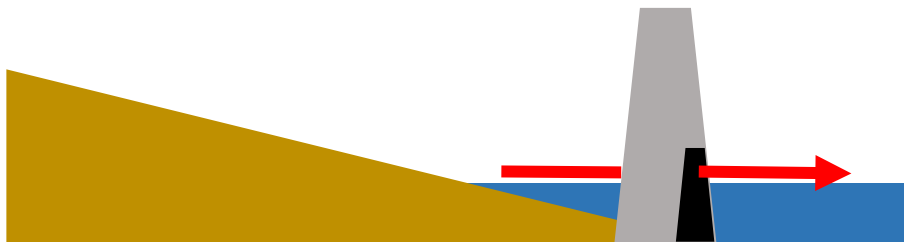
文政神社（鏡町両出）



干拓とは？埋立となにがちがう？



①海の水が引いたときに堤防をつくれます。



②堤防に海水の出口があり、海水が引くときには開けておきます。



③水が引いたら、出口を閉じます。



④海水は満潮のときも入ってこれず、新しい陸地ができます。

海や池に土などを入れて陸地をつくる「埋立」とはちがうんだね！

